

地方小出版  
情報誌

# アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## 「ふるさと文庫」200点と崙書房出版の40年

著者と語り合いながら一点、一点、  
地域の記憶と記録を編んできた。

文・小林 規一

2011年(平成23)10月刊行の山本鉦太郎著『白樺派の文人たちと手賀沼』で小社の「ふるさと文庫」は200点に達した。

創刊は1977年(昭和52)の北野道彦著『利根運河』であるから200点到達までに34年を要したことになる。その34年は私の崙書房出版での年月にも重なる。

崙書房出版の創業は1970年(昭和45)、千葉県の北西部、江戸川を挟んで埼玉県に隣接する流山市であった。創業時の出版は常総(常陸・下総・上総)地方の基本文献の復刻である。当時出版(復刻)された主な文献は以下のようなおものである。

終生を筑波山麓で送り、郷土をみつめた筑波嶺詩人『横瀬夜雨復刻全集』、「土」に縛られた人間を描いた『長塚節復刻全集』、明治の自由民権運動史上著名な加波山事件を詳述した『東隣民権史』、幕末水戸藩の天狗党による筑波山拳兵とその後を描いた『波山始末』、三代にわたる執筆者による常陸国の第一級の地誌である『新編常陸国誌』、幕末、安政五年刊の日本民俗誌の古典、著者赤松宗旦による『利根川図志』。

一方、下総=千葉では、自ら古老に尋ね現地調査をおこなった佐原の名主、清宮秀聖による下総地方研究の基本文献『下総国旧事考』、昭和2年の野田醤油(現キッコーマン)大争議に関する労使双方の資料を集成した『野田労働争議資料集成(全10冊)』、そして大正12年に東葛飾郡教育会から刊行された総頁数2486という大著『東葛飾郡誌』(以後千葉県内の各郡誌を復刻)などまさにこの地方の基本文献と言ってよい

ものであった。

そして1977年、千葉・茨城両県に関わるテーマを原則書き下ろし原稿による新書判のシリーズ「ふるさと文庫」がスタートした。

特筆すべきは「ふるさと文庫」が会員制によって開始されたことであった。シリーズ開始前に募集した会員に毎月この文庫を頒布するというかたちでのスタートであったので、当初は月に千葉が5点、茨城が5点の計10点という今から思えば仰天するような刊行計画であった。

文庫の体裁は新書判80~128頁、定価は100頁未満が480円、100頁以上が580円である。かくして会員数も約300でのあわただしい出発であった。しかしこの当初の刊行計画によって「ふるさと文庫」は月10点という目標には到底及ばなかったが、わずか5年で100点という驚異的な点数を刊行したのであった。

### 当初の会員制頒布というシステムが、 思わぬ効果をもたらす

だがその時点で会員制頒布は資金的にも、制作的にも限界であった。その後「ふるさと文庫」は書店を通して読者を獲得するという書籍本来の販売となった。それに伴い頁数、定価も当初の体裁から現在の平均200頁、定価1200~1300円に落ち着いた。

ただこの会員制頒布というシステム

が、思わぬ効果をもたらした。会員募集のパンフレットは「原稿をお寄せください」「資料をご提供ください」と呼びかけた。その結果、会員=読者のなかから、著者が輩出したのである。それぞれの「ふるさと文庫」を読んだ人

たちが自分にもこうしたテーマがあるとチャレンジしてくれたのである。地域のテーマに関心持つ読者、やがて著者になったのである。

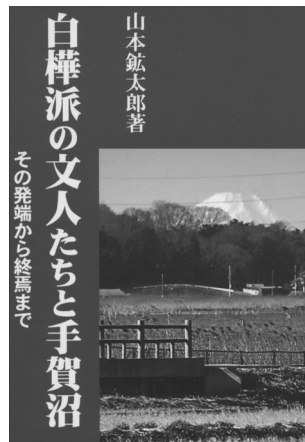
出発時点での会員=読者のなかには、現在に至るも地域の意欲的なテーマに持続的に挑む小社の著者が嬉しいことに多く存在する。読者、著者が身近な出版社と出会い、これま

た身近な地域というテーマへ関心を寄せる。

「文庫」第一作の「利根運河」で著者の北野道彦さんは、それまであまり知られることのなかった日本の運河、利根川と江戸川を結ぶ約8キロ余りの利根運河という小さな運河について「利根運河は日本のうちでは、もっとも大きい運河なのである。ところが、この日本一の大運河を知っている人の少ないのは、まったく意外である」と本書を始める。

本書はこのような発端から運河の歴史、日本の流通史、お雇い外国人問題へとその視野を広げていくのである。皮肉なことにこの運河を知らなかったのはむしろ運河に隣接する地域に住む我々であった。

「ふるさと文庫」のテーマは、歴史、自然、地理、人物と多彩である。それぞれのテーマが記録するに足るか、著者と語り合いながら一点、一点、地域の記憶と記録を編んできた。



そのことは「千葉県の歴史」「千葉県の自然」などという地域を扱っても大文字のテーマなら数頁、数行で語られてしまう事柄を結果として一冊、一冊に仕上げてきたと言ってもいいだろう。

「ふるさと文庫」200点達成を報じてくれた記者は「時代も、テーマもとどりだが、出版された200点の文庫はあたかも、房総の昔と今を文で表現す

るパッチワークのような存在になっている」(朝日新聞千葉版2011.10.19)と書いてくださった。当事者としてこれに勝る評価はなく嬉しかった。

1980年刊行の『醤油ばなし 海人がたり』(ふるさと文庫74)で、銚子市在住の常世田令子さんが次のようなエールを贈っている。それから30年経ても私たちには力強い励ましである。

「私が故郷潜航を思い立った七年前、偏った地域の聞き書きが一本にまとめられるなど、考えようもなかった。しかし書く志あらば出す志もあったわけで、それがまた、よりしんどい仕事へと私を駆り立てることにもなる。これは嬉しい明るい変化であった」。

(こばやし のりかず/崙書房出版代表)

## 新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

### 『原発闇社会 — マスコミが伝えない現実』 ● 連合通信社編集部著



東電福島第一原発事故に限らず、原発、放射能問題で私たちを不安にさせているのは、東電、政府を含め、信じられる情報が何か分からないことだ。本書は、国民・労働者の立場に立って運動に役立つ正確な情報を早く、をスローガンに戦後から活動を続けている連合通信社が、3.11以降8月までに配信した原発関係記事を加筆修正して収録したものである。福島、島根、浜岡、東海、玄

海各原発立地の住民の置かれた立場をルポし、政官財学と報道の在り方を問い、市民運動の動きを追う。また、識者インタビューと、放射性物質等の基本データや原発関連用語集を掲げ、市民自らの主体的な学習と行動を促している。

◆ 1260円・四六判・144頁・機関紙連合通信社・東京・2011/9刊・ISBN978-4-905653-98-1

### 『かばくんのきもち — 災害のこころのケアのために』 ● 富永良喜著



「あんなこわいこと」からずいぶん時間がたったのに、まだ心配でたまらない。頭も痛いし、なかなか眠れない。「いやなこと、ばっかりだ!」と叫んでしまうかばくンだけど、ある日夢に大きな木が出てきて、安心、絆、表現、チャレンジという4つの大切なことを教えてくれる。少しずつ元気になっていくかばくン。本書は阪神大震災以来、日本はもとよ

り世界中の被災地を回り、ストレスケアを続けてきた著者による絵本。子どもたちの疑問に答えてくれるQ&Aもあり、拡大して紙芝居としても活用できる。東日本大震災から半年以上が過ぎたが、こうしたストレスマネジメントの本がますます必要とされている。

◆ 1260円・B5判・24頁・遠見書房・東京・2011/8刊・ISBN978-4-904536-25-4

### 『キッチン菜園ノート — 今日から育てる お部屋で育てる』 ● ベターホーム協会編



かわいれだこんなら必要なのは種と小さな容器とペーパータオル。ペーパータオルの上から水を注ぎ種をパラパラとまく。発芽するとぐんぐん成長し、10日ほどで収穫。また、いつもなら気にもとめず捨てていたキャベツの芯から葉を育てて鉢で収穫。小さな葉を残しておくとかつ々に育ってくる。想像するだけで、なんか楽しくなってくる。この本で作るキッチン菜園には自分で育て

た安心感と、とれたてのおいしさ、買うよりもお得なうれしさ、自分でかんたん育てる楽しさが、ぎゅーっと詰まっている。「弱い光しか入らない場所では育たない?」「水やりは?」等、巻末で、誰もが知りたい疑問に答えてくれている。

◆ 735円・210mm×185mm判・71頁・ベターホーム出版局・東京・2011/11刊・ISBN978-4-904544-21-1

### 『ともだちは実はひとりだけなんです』 ● 平岡あみ著



〈ともだちは実はひとりなんです認めるまでに勇気が必要〉フランス語で“ともだち”は“あみ”。本書はこの名を持つ17歳の女子高生が独自の感覚で詠んだ短歌集。4つのテーマに分かれていて、12~16歳時の作品が収められている。ちょっと複雑な家庭の事情を織り込んだり、初めての恋に有頂天になったり、スタバ、マック、ニーハイなど、今どきの女子高生の日常生活やファッショ

ンの単語も随所に光るが、どれも自分自身を凝視する力に溢れ、自分の中の「さみしさ」に対峙する作品は不思議な共感を呼び覚ます。テーマごとに歌人・穂村弘の解説がつき、歌にマッチしている宇野亜喜良のイラストも秀逸。詩人でもある著者の今後の活躍が期待される。

◆ 1680円・四六判・275頁・ピリケン出版・東京・2011/9刊・ISBN978-4-939029-53-0

# 売行良好書

期間：2011年10月16日～11月15日

## 【出荷センター扱い】※税込み価格

- (1)『医者現場でどう考えるか』2940円・石風社 (2)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社 (3)『わたし、少しでも神さまとお話できるんです』1470円・文屋 (4)『未踏の野を過ぎて』2100円・弦書房 (5)『ボードゲームカタログ』1890円・スモール出版 (6)『言葉のフーガ 自由に、精緻に』2520円・四明書院 (7)『だれか来る日に、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (8)『蝉声』2800円・青磁社 (9)『新装版 不思議の国のアリス・オリジナル』2100円・書籍情報社 (10)『中島みゆき 絶対矛盾的自己同一の世界』1575円・アートヴィレッジ (11)『赤いおおかみ』2415円・古今社 (12)『九州発 食べる地魚図鑑』3990円・南方新社



## 【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】※税込み価格

- (1)『東京かわら版 11月号』420円・東京かわら版 (2)『筑豊炭鉱絵巻』6825円・海鳥社 (3)『円周率100万桁表』330円・暗黒通信団 (4)『素数表150000』375円・暗黒通信団 (5)『未踏の野を過ぎて』2100円・弦書房 (6)『改訂増補 近世栃木の城と陣屋』1995円・随想舎 (7)『さつま人国誌 戦国・近世編』1365円・南日本新聞社 (8)『熊本城を極める』840円・サンライズ出版 (9)『ババヘラの研究』1575円・無明舎出版 (10)『突撃! 弘前城』630円・北方新社

## 【ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書】※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『ともだちは実はひとりだけなんです』1680円・ピリケン出版 (2)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社 (3)『医者現場でどう考えるか』2940円・石風社 (4)『ヤマの記憶』3990円・西日本新聞社 (5)『いま「アジア」をどう語るか』1995円・弦書房 (6)『アジアの文化は越境する』1785円・弦書房 (7)『筑豊炭坑絵巻 新装改訂版』6825円・海鳥社 (8)『下町酒場ぶらりぶらり』1680円・本の雑誌社 (9)『見て解るイタリア語』3675円・イタリア会館出版部 (10)『酒とつまみ 第14号』400円・酒とつまみ社

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
本と出版流通のページ：<http://neil.chips.jp/>

# トピックス —★★★


## ▼震災被災品返品処理に目処

東日本大震災における書店被災品の返品処理がほぼ終わりました。8月に被災品の返品処理希望明細が日本出版取次協会から届きました。業界全体で約16億円、出版社数1800社になるとのことでした。被災状況は全・半壊104店、浸水・水漏れ53店、商品汚損630店、合計787店です。6/30現在営業停止店81店、廃業予定17店という説明でした。当センター扱い出版社の返品扱い処理希望商品は、193社1,211冊、本体価格合計209万円でした。発生した書店数は47書店。現物は腐敗や水濡れ等でやむを得ず現地にて処理済とのことでした。このうち、当センターの出荷していないもの(大手取次支店直取引、地域取次扱い、他の専門取次扱いなど)を除き、入帳(返品受入)交渉対象品としてお願いをした社数は181社、160万円になりました。この3ヶ月かけて各社にお願いしたところ、通常入帳173社、条件付入帳1社、入帳不可4社、廃業・解約・行方不明で入帳不能版元3社という結果になりました。ほとんどの社が震災被害書店を支援していただきました。

## 郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
  - ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
  - ◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター  
FAX：03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



# 三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM～8:00 PM  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
TEL. 03-3233-3312(代)  
URL <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の  
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

